



## 新庁舎の竣工にあたって

待望の奈良文化財研究所新庁舎が完成し、無事落成の運びとなりました。これもひとえに皆様の日ごろのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

この新庁舎は、奈文研の3代目の庁舎で、奈文研が自ら設計した初めての建物になります。1952年の奈文研創設時の初代庁舎は、奈良公園内にある旧奈良県商工館（現在の奈良国立博物館仏教美術資料研究センター）で、平城京研究の先覚者であり建築史研究の大家であった関野貞博士が設計し、1902年に完成した由緒ある近代和風建築でした。

2代目の庁舎は、1980年、平城宮跡に西接する旧奈良県立奈良病院を改修した建物で、当時平城宮跡内に分散していた埋蔵文化財センターと平城宮跡発掘調査部を統合する形で移転しました。しかし、築後半世紀を経て建物の老朽化が進み、耐震性と狭隘化が問題となり、今回の新庁舎建設の運びとなりました。

新庁舎の建設予定地は、2度にわたる試掘調査の結果、旧秋篠川の氾濫によって遺構面は失われていると判断していましたが、旧庁舎解体後の発掘調査で、平城京の条坊道路遺構や、秋篠川の旧流路の埋立遺構が遺存することがあきらかになりました。

発見した遺構の取扱をめぐって、文化庁をはじめとする関係機関と協議を重ねた結果、新庁舎の建物位置や平面プラン、床面積、地下構造等を大幅に変更して遺構保存をはかることにしました。このため、新庁舎の完成は当初計画から2年遅れとなり、延床面積も計画変更前よりも縮小しましたが、遺構と共に存する奈文研らしい新庁舎になりました。

完成した新庁舎は、本館とエントランス棟からなる地上4階、地下2階、延べ床面積11,387m<sup>2</sup>、高さ14.99mの建物です。建物の外観は、特別史跡平城宮跡からの眺望に配慮し、素地を生かした落ち着

いた色調に統一しています。日射抑制を兼ねた深い軒や、表階段を模した二重庇によって構成される水平ラインの重なりが、意匠上の特徴です。

一条南大路の路面上に建つエントランス棟は、遺構保存に配慮して旧庁舎の基礎杭と同位置に杭を打設したため、小規模な2階建ての建物となりました。この一階をエントランスとし、2階には大会議室を設けました。

いっぽう、庁舎の中心となる本館は、1階に研究支援推進部と図書室、2階に都城発掘調査部、3階に文化遺産部と埋蔵文化財センター、4階に企画調整部の各研究室を配置しました。2階と3階の中央部には特別収蔵庫を設け、地下には47万冊の書籍の収容が可能な書庫と、高エネルギーX線CT装置を設置しています。

地下に保存した遺構は、地表に遺構表示をおこない、エントランス棟1階のエントランスホールには発掘調査の成果や出土品を紹介する展示スペースを設けました。

この新庁舎完成を一つの節目として、奈文研の所員一同、心新たに文化財の調査研究業務に邁進する所存です。新庁舎の建設にあたり、地下遺構の保存と工期の延長、予算面等で、文化庁と独立行政法人国立文化財機構から多大なご支援を賜りました。また、新庁舎建設に携わった工事関係者や関係機関、近隣住民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

（所長 松村 恵司/研究支援推進部 立川 弥生子）



完成した新庁舎(南東から)



## 発掘調査の概要

### 藤原宮大極殿院東北隅部の調査(飛鳥藤原第195次)

2017年10月から開始した藤原宮大極殿院東北隅部の調査は、奈文研ニュースNo.68において調査前半部の報告をおこないました。今回はその後あきらかになった調査後半での成果を報告します。調査は、2018年3月27日まで続きました。

調査の大きな目的は、東面回廊北半部と北面回廊の構造が複廊であるかどうかの解明でした。東面回廊では、礎石の据付痕跡を6ヶ所確認しました。東西に等間隔にならぶ3基の据付痕跡を確認したことから、東面回廊は複廊であったと考えられます。桁行の柱間寸法は、北端部が約3.8m(13尺)、その南は約4.1m(14尺)、梁行は約2.9m(10尺)となります。回廊基壇は版築で丁寧に積土をおこない、造成していることがわかりました。

北面回廊では礎石の据付痕跡を11ヶ所確認しました。北側の遺存状況は良くなく、北側柱筋は根石由来と考えられる小礎の広がりを確認するのみでした。ただ、小礎の広がりは北側柱推定位置でみられることから、複廊であった可能性は高いといえます。柱間寸法は、桁行約4.1m(14尺)、梁行約2.9m(10尺)に復原できます。

また、東面・北面回廊沿いにL字状に溝が掘られていることがわかりました。この溝は回廊造営時につくられ、造営時の雨水処理のため、回廊基壇の高まりと一体的に掘削されたとみられます。回廊造営に関わる重要な知見を得ることができました。

3月3日には現地説明会を開催し、645名の方々に調査成果をご覧いただきました。

(都城発掘調査部 前川歩)



礎石据付痕跡とL字溝(北西から)

### 大官大寺南方の調査(飛鳥藤原第196次)

大官大寺は藤原京左京九条四坊・十条四坊中の6町を占め、百濟大寺に起源をもつ官寺です。主要な伽藍の配置や規模はあきらかになっていますが、南門等の堂塔は未確認です。また、主要伽藍から山田道までの南北約450mの地域に関しては、考古学的な調査はほとんど実施されていませんでした。そこで、寺の全容とその南方の様相を解明するため、2017年度から調査を開始しました。

調査は短時間で広範囲の様相を把握することができる地下探査と、実際に地下の詳細な情報を取得することができる試掘調査をあわせておこないました。探査は2018年1・2月に、のべ3日間で約10,000m<sup>2</sup>実施し、試掘調査は3月6日から23日まで、45m<sup>2</sup>実施しました。調査区は藤原京左京十二条四坊東北坪に位置し、大官大寺の中軸線上で、かつ東四坊間路の東側溝が想定される地点です。

残念ながら道路側溝は検出されませんでしたが、掘立柱建物1棟と掘立柱塀1条等を確認しました。また、調査区の東部では、流路の西岸とみられる、東に向かって下がる旧地形を確認しました。埋立土の中には7世紀後半の土器片が含まれております、その頃にこの旧地形を埋め立てて平坦な地形へと改変していくものと考えられます。

(都城発掘調査部 清野陽一)



試掘調査区全景(東から)

## 西大寺旧境内の調査(平城第597次)

西大寺は天平神護元年(765年)に称徳天皇によって創建された寺院です。奈良時代、西大寺は平城京右京一条三・四坊にまたがって広大な面積を占めており、東大寺にならび称される規模を誇っていました。この西大寺旧境内に建設される共同住宅の工事に先立ち発掘調査をおこないました。調査面積は155.55m<sup>2</sup>で、2018年2月20日に調査を開始し、3月30日に終了しました。

調査地は平城京右京一条三坊七坪にあたり、西三坊坊間路東側溝の計画ラインが調査区内に入ることが想定されました。しかしながら、奈良時代の遺物をふくむ溝は調査区内では検出されず、西三坊坊間路東側溝は条坊計画のラインよりもずれことがわかりました。また、中世の羽釜等の土器や瓦を多量にふくむ南北溝一条、中世の土師皿や箸等をふくむL字溝を一条検出しました。遺構からは中世の土器や瓦片が多量に出土しており、当該地が中世において活発に利用されていたことを読み取ることができます。

今回の調査で注目すべき成果として、巨大な掘立柱の柱穴を1基検出しました。柱穴の規模は東西幅約2.2m、南北幅約2.6m、深さは検出面より約2.1mです。柱穴の中からは奈良時代の土器や瓦が出土しています。この巨大な柱穴掘方内の北西隅に、直径約

70cm、残存長約150cmのヒノキの柱根が遺存していました。柱穴の西壁と柱根の隙間は0.1mほどで、意図的に西壁に寄せて立てられたことがうかがえます。柱根の底面は斧によって平らに加工されていました。また、この巨大な柱を直立させるために、柱の下に板材を楔のように入れて調整したようです。さらに、柱根の周囲には井桁を組むように十数点の木材を配置し、根固めをしていました。根固めの木材には枘穴が残っているものもあり、多くは建築部材を転用したものと考えられます。

同規模の柱穴は周囲ではなく、建物の柱の可能性は低いと考えられます。さらに、巨大柱穴を検出した場所は奈良時代当初の中心伽藍である薬師金堂・弥勒金堂を取り囲む回廊の外側、東南隅に位置します。独立した柱穴である点、中心伽藍の東南隅に位置する点を考えあわせると、寺院を莊嚴するために旗をかける「幢幡(どうばん)」の可能性が考えられます。「幢」の記述は、宝亀11年(780年)に作成された『西大寺資財流記帳』にもあります。今回検出した柱根が『西大寺資財流記帳』に記されている「幢」にあたるかどうかは、これからさらなる検討が必要になります。古代・中世の西大寺の様相をあきらかにすべく、これからも調査を進めていきたいと思います。

(都域発掘調査部 浦 蓉子)



調査区全景(南西から)



柱穴にのこる柱根(北東から)

## 「南山城村の宇治茶生産景観」全覧図

その土地の風土に根ざした生活や生業によって培われた文化的景観は、広域のエリアにまたがっているため、その価値の全体像を視覚的に捉えづらいものです。そこで景観研究室では文化的景観の価値を伝える表現として、調査にかかわってきた各地で「文化的景観全覧図」という鳥瞰図の作成に取り組んでいます。

今回ご紹介するのは、2015年1月、京都府の文化的景観に選ばれた「南山城村の宇治茶生産景観」の全覧図です。南山城村は京都府の南東部に位置する府内唯一の村です。木津川と名張川が流れる笠置山地にあり、なだらかな高原状の山地が多くの面積を占めています。全覧図からは、複雑な山の地形に沿って、谷には田畠が、山すそには屋敷が、丘陵地から尾根にかけては茶畠が広がっているのが読み取れるかと思います。茶葉の生育に適した寒暖差のある高原の気候で、香りの高い良質な煎茶を栽培し、品質・量ともに宇治茶生産を支えています。茶業の歩みとともに、南山城村の人びとは、土地の条件や地形の特徴を細やかに読み取りながら、丘陵や尾根を茶畠として開拓することで、茶畠の畝が地形に沿って織りなす独特の茶畠景観が広がっていました。

このように全覧図の作成によって、地形や気象等の自然環境の特徴を捉えながら、風土と人の営みによって形づくられた文化的景観の価値を、視覚的にもわかりやすく伝えていくことを心がけています。

(文化遺産部 本間智希)



## 熊本地震被災文化財への技術的支援

災害による悲しいニュースを耳にすることがしばしばあります。奈良文化財研究所では、被災した文化財の保護を目的とした多様な活動を進めてきました。遺跡・調査技術研究室では、被災した遺跡の現況把握のための迅速な状況計測と、発掘調査等によつてあきらかになる災害痕跡の分析や統合による災害考古学の研究等を通じて、文化財の保護に資する研究をおこなっています。

熊本地震については、熊本城をはじめ多くの文化財や遺跡に被害がでています。私達は熊本県や県内の市町村、文化庁等と連携して、これらの被害の把握や対応のための基礎情報の取得を通じて支援を進めています。昨年度は研究室の機材を長期間熊本県に移動させて、被災古墳の状況調査に対する支援をおこないました。

井寺古墳では、周辺の計測と地中レーダー・電磁探査をおこない、亀裂の入る墳丘の表面の情報に加えて、地中の石室の状況をあきらかにすることができます。塙原古墳群と小坂大塚古墳でも同様に周辺の計測と地中レーダー探査をおこない、地下の情報をあきらかにし、現在地表で観察できる被害の要因についての検討を進めています。

しかし、地震でいかに変化したのか、という点は災害以前の情報がなく、わからないのが残念です。遺跡保護には平時からの情報収集が大切なことを痛感しました。被災地域で苦闘されている担当者の方々にいかに支援をすることができるのかと日々考えながら、活動を続けています。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



井寺古墳の地中レーダー探査風景(空中ドローンより)

## 平城宮いざない館の開館

平城宮いざない館は、国土交通省が朱雀門前に建設を進めてきた平城宮跡歴史公園のガイダンス施設です。奈良文化財研究所では、2009年度より、その展示室4「時をこえて」について協力をおこなってきました。そして2018年3月24日、平城宮跡歴史公園の開園式典を迎え、いざない館もオープンしました。開館後は、大変多くの方々に来館していただき、展示室4もすこぶる好評です。

「時をこえて」は3つの部屋で構成されており、I「都の造営」、II「平城京」、III「平城宮」というテーマで展示をおこなっています。一般に混同されがちな平城宮と平城京の、両者の違いや実像等を、部屋を分けることでよりわかりやすく紹介しています。また、専門的な内容を広く一般の方にお伝えするために、難しい専門用語を使わず、復元画家の早川和子さんのイラストも多用しています。

展示品は、約600点にのぼります。その多くが、奈文研の発掘調査で出土したものとそのレプリカです。また、市内の寺院や奈良市教育委員会からの借用品もあります。そのため、これらを維持管理していくには、専門的な知識を備えた奈文研の関係者が必須といえます。そこで、奈文研では、展示室4での学芸業務を受託することになりました。

平城宮跡解説ボランティアに案内解説の協力を得て、奈文研の調査研究成果の展示公開の場という位置づけとなった平城宮跡資料館と役割分担をしながら、平城宮跡を舞台とした展示活動をおこなっていきたいと考えています。

(企画調整部 加藤 真二)



展示室4「時をこえて」

## 全国遺跡報告総覧説明会の開催

2017年9月から2018年2月にかけ、報告書データベース作成に関する説明会を全国5ヶ所で開催しました。報告書電子化及び全国遺跡報告総覧(以下、遺跡総覧)への登録に関する実務を説明し、発掘調査報告書の一層の活用促進をはかることにより、埋蔵文化財の普及公開に資することを目的として実施しました。説明会は、主催を奈良文化財研究所、共催に全国遺跡報告総覧プロジェクト・島根大学・東北大学・岡山県古代吉備文化財センター・岡山大学、後援に文化庁・全国埋蔵文化財法人連絡協議会・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・福岡市という枠組みで、各機関から支援を賜りました。

各回の説明会では、文化庁文化財部記念物課の調査官による基調講演にて、報告書のデジタル対応についての動向が述べられました。続いて遺跡総覧の事務局からの案内として遺跡総覧の機能解説と今後の可能性、データ登録の実務的な説明をしました。そして既にデータ登録を推進している機関から事例報告をおこない、最後の質疑応答では、事前に会場から回収した質問票を整理しながら、各講師が回答し、疑問点の解消がはからされました。

説明会の参加者は、文化財行政関係者を中心には5回で合計241名の参加がありました。参加者からは「著作権について理解が深まった」「印刷物と低精度PDFの位置付けが理解できた」「報告書の公開方法等今後の参考になった」との感想をいただきました。予稿集をWEB公開していますので、ぜひご覧ください。

(企画調整部 高田祐一)

全国遺跡報告総覧 (<http://sitereports.nabunken.go.jp>)



報告書データベース作成に関する説明会（東北大）

## 新木簡データベース「木簡庫」の公開

2018年3月、奈良文化財研究所がこれまで公開してきた「木簡データベース」(1999年公開)と「木簡字典」(2005年公開)の統合が実現し、それぞれの便利さはそのままに、より使いやすいデータベースに生まれ変わりました。名付けて「木簡庫」。「木簡庫」には次のような特徴があります。

**1.木簡を検索するデータベースと、木簡の文字(画像)を検索するデータベースの共通の入口** テキスト情報を中心に木簡を検索する「木簡をさがす」(旧木簡データベース)と、画像を中心に木簡の文字を検索する「木簡の文字をさがす」(旧木簡字典の機能)を、同じ画面から選択して利用できます。

**2.テキスト表示と画像表示の相互移動機能** 「木簡をさがす」の検索結果一覧(テキスト表示)と、「文字画像をさがす」の検索結果一覧(文字画像表示)の間を、相互に往復することができます。

**3.木簡の大きさや年紀の範囲指定検索機能** 従来「木簡字典」にしかなかった木簡の大きさや年紀についての範囲指定検索や、出典・遺跡名・型式番号等による検索結果のソートを可能にする等、検索機能を強化しました。

**4.様々な絞り込みやリンク機能** 検索結果一覧からの属性による絞り込みや、個々の木簡の詳細データ画面からの同じ属性をもつ木簡の再検索機能、あるいは出典文献のPDFへのリンク等、当該木簡の周辺情報の閲覧が便利になりました。

従来の木簡データベースや木簡字典と同様に、広くお使いいただき、忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。なお、「古代地名検索システム」も木簡にみえる地名を加えてリニューアルオープンしました。

(副所長 渡波晃宏)

「木簡庫」のトップページ  
(<http://mokkankō.nabunken.go.jp/>)

## 飛鳥資料館 夏期企画展 第9回写真コンテスト「飛鳥のいきもの」

耳をすますと聞こえる川のせせらぎや、小鳥のさえずり。集落を歩けば、路地裏で猫が寝起きをし、田んぼではカエルが飛び跳ねます。どのかな農村の景色が広がる飛鳥は、様々ないきものの宝庫でもあります。

第9回の写真コンテストでは、「飛鳥のいきもの」がテーマです。歴史や文化を感じられる飛鳥地域で、動物や虫、魚等の「いきもの」を写した写真を募集します。

飛鳥に暮らすたくさんのいきものは、飛鳥が都であった時代から現代まで、人々の営みとともに命をつなぎ、歴史を重ねてきました。いきものの姿を通して、飛鳥の魅力が写し出された写真をお待ちしています。  
(飛鳥資料館 小沼 美結)



応募締切：7月8日(日)必着

写真展示期間：7月27日(金)～9月2日(日)

来館者投票期間：7月27日(金)～8月19日(日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

\*※作品の応募方法は、飛鳥資料館ホームページをご覧ください。

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：[0744-54-3561](tel:0744-54-3561)(飛鳥資料館)

## 平城宮跡資料館 夏のこども展示「たいけん！なぶんけん」

奈良文化財研究所では、お盆や正月の休み、雨の日を除き、一年中発掘調査が続けられています。まもなくやってくる夏の炎天下でも、同様です。

日々おこなわれているそれらの発掘調査は、どのように進められているのか？出土した遺物の整理作業は？地下から現れた遺構や遺物を、研究員達はどのように見てどのように考えているのか？今年の夏のこども展示では、普段触れる機会のない文化財研究所の職業体験をテーマに開催します。

この展示を通して、埋蔵文化財調査のおもしろさをお伝えできれば幸いです。この夏、奈文研が担う調査研究活動の一端を、親子そろって体験してみませんか？

(企画調整部 座朝えみ)

会 期：7月21日(土)～9月2日(日)月曜休館

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

ギャラリートーク・ワークショップ：7月27日、8月3、10、17、24、31日 各回14:30～(予定)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問合せ：[0742-30-6753](tel:0742-30-6753)(連携推進課)



## ■ お知らせ

### 「奈良の都の木簡に会いに行こう！2018」(日本学術振興会 ひらめき★ときめきサイエンスプログラム)

みなさんは木簡(もっかん)を見たことがありますか？今年も「奈良の都の木簡に会いに行こう！」を開催します。平城宮跡にある研究所で、夏休みの1日を木簡とともに過ごしてみませんか？詳しくは、奈文研のホームページ(<https://www.nabunken.go.jp/fukyu/event2018.html#scienceprogram>)をご覧ください。

日 時：8月21日(火)・22日(水) (同一プログラムで2回おこないます)

募集人数：各日とも15人(締切7月27日。応募多数の場合は抽選になります)

対 象：小学5・6年生、中学生(保護者同伴可)

申 込：日本学術振興会のホームページ(<https://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html>)からお申し込みください。

## ■ 記 録

### 文化財担当者研修

#### ○建築造構調査課程

2018年6月11日～6月15日

8名

### 現地説明会

#### ○平城第595次発掘調査 現地説明会

平城宮跡東院地区

2018年6月17日(日)

813名

### 第122回公開講演会

2018年6月16日(土)

224名

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール [jimu@nabunken.go.jp](mailto:jimu@nabunken.go.jp)

発行年月 2018年6月